

# 平成 28 年度 学校目標

	視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容	
				具体的な方策	評価の観点
1	教育課程 学習指導	①基礎学力の育成を軸に、社会的・職業的に自立できる人間の育成に向け、教育課程の工夫・改善に取り組むとともに、授業力を高めるための組織的取組みを進める。 ②学校行事や生徒会活動における生徒の主体的な活動の促進を図る。	①授業改善のための研究会を複数実施し、生徒が主体的に学習に取り組むための方策を講ずる。 ②学校行事の参加率を上げ、全校生徒で取り組める学校行事を目指す。	①研究会を開催するにあたり、外部の教育資源を積極的に活用する。 ①生徒が主体的に学習に取り組むために効果的なグループ学習のありかたを研究する。 ②行事開催前の期間における生徒の活動を重視し、応援団・クラス企画・有志等の活動を活性化させる。	①外部の教育資源を活用した研究会を2回以上実施したか。 ①効果的なグループ学習のあり方を研究できたか。 ②全生徒行事参加率 ②応援団及び有志参加(文化祭・駅伝大会)の人数
2	生徒指導 ・支援	①生徒一人ひとりが抱える課題を的確に把握し、きめ細かい個別支援を行うための仕組みづくりを進める。 ②部活動における生徒の主体的な活動に向けた支援を進める。	①教職員が生徒に対応する時間を確保し、個別理解に努めるとともに、的確な指導・支援を行えるよう、教職員の資質向上に努める。 ②部活動の加入率を全校生徒の4割程度にする。 ②部活動の活動場所に教職員が足を運び、指導・助言ができる環境を整える。	①会議・研修事業のスリム化を図る。 ①休み時間等授業時間以外における教職員と生徒とのコミュニケーション機会を充実させる。 ①スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、スクールキャリアカウンセラーなどの専門職を積極的に活用する。 ②部活動活性化に向け、顧問の指導時間の確保とともに年間を通して部活動で活躍する生徒の広報等を通じ、部活動の有益性等について意識付けする。 ②秋に第2回部活動週間を新設し、部活動を再度見学・体験することで入部への動機づけをする。	①会議・研修事業の回数、時間 ①生徒情報の入手及び共有の度合い ①スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、スクールキャリアカウンセラー等の活用実績 ②部活動加入率
3	進路指導 ・支援	生徒の実態やニーズを的確に把握し、個人の努力のみで達成できない社会的バリアの除去を含む視点からの支援を併せて行うとともに、そのための仕組みづくりを進める。	生徒一人一人がその個性に応じた進路を主体的に選択・実現できるよう条件整備を進める。	・進路情報室を就職希望者用の、S402教室を進学希望者用のスペースとして、それぞれ整備を進める。 ・3年間を見通して、外部機関との連携を強化しながら、「総合」や本校独自の体験プログラムによる実践的なキャリア教育を推進する。	・進路室等の生徒利用が拡大したか。 ・外部との連携が拡大し、生徒の社会的実践力向上に結びついたか。 ・生徒個人の努力では解消できない課題の解消を支援し、進路希望実現に結びつけることができたか。
4	地域等との 協働	地域の様々な社会資源との協働を通して、地域に根ざした学校づくりを進めるとともに、地域貢献活動を充実させる。	外部機関との連携を進め、生徒の社会的実践力を向上させる。	・緑法人会等地域の団体と連携し、キャリア教育、就労支援、地域貢献活動等を推進する。	・連携によって、社会的実践力が向上したか。
5	学校管理 学校運営	学校が抱える課題に対して、教職員が意欲を持ち、主体的に教育に取り組むための「生き生きとした職場づくり」を図る。	組織的な業務の遂行をより推進するとともに、ベテラン教員のノウハウを若手教員に伝え、若手教員の育成を図る。	・組織的な学年運営を進め、生徒対応等において担任経験の少ない教員を学年団のベテラン教員が積極的にサポートする。 ・初任者研修においてベテラン教員のノウハウを伝える機会を増やす。	・学校が抱える課題に対して組織的に対応する体制がより充実したか。 ・初任者研修におけるベテラン教員のノウハウを伝える機会の回数。